

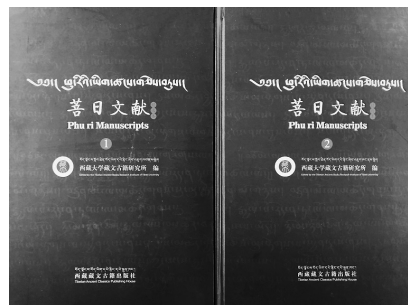
西藏大学蔵文古籍研究所編 『善日文献』

井内真帆

1. はじめに

2002年、ネパールとの国境にほど近いチベット自治区シガツェ・ニヤラム県プリ（Gzhis rtse khul Gnya' lam rdzong Phu ri, 中国語表記は日喀则市聂拉木县善日）の村落から約150種類、約1万2千フォリオの写本群が発見された。それらは発見された地名から「善日（プリ）文献」（以下、善日文献に統一する）と呼ばれ、2005年からチベット自治区ラサ市の西藏大学図書館に保管された。その後、同大学の蔵文古籍研究所により目録の編纂と研究が進められ、2018年7月に目録『善日文献』⁽¹⁾（全2巻）が出版されてその全容が明らかになった。

目録には冒頭12ページから46ページに中国語、チベット語、英語の3言語による序文があり、T. P. (Tibetan Phuri の略)として001～150の通し番号が付された写本のカラー写真が続く。写本は同研究所によりテキスト同定されているものについてはチベット語、中国語、英語の3言語でテキストのタイトル及び写本のサイズの情報が掲載される。⁽²⁾ 目録に収録される写本は計120点で、大蔵経典が32点、その他蔵外文献が88点ある。大蔵経典は『十万頌般若経』（*shes rab kyi pha rol tu phyin pa*



西藏大学蔵文古籍研究所（編）『善日文献』ラサ：西藏蔵文古籍出版社，2018年7月（全二冊），1200人民元，344ページ(1)／353ページ(2)，ISBN 978-7-80589-996-1.

stong phrag brgya pa, P. 730/ D.8) と『二万五千頌般若経』(*shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag nyi shu lnga pa*, P. 731/ D.9) がほとんどを占め、他に『一万頌般若経』(*shes rab kyi pha rol tu phyin pa khri pa*, P. 733/ D.11), 『大宝積経』(*dkon mchog brtsegs pa chen po'i chos kyi rnam grangs stong phrag brgya pa*, P. 760/ D.45), 『八千頌般若経』(*shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa*, P. 734/ D.10) がある。一方、蔵外文献は真言、成就法関係、曼荼羅儀軌、暦など多様である。

菩日文献は全て写本で、その年代は蔵文古籍研究所の研究によると 10 世紀から 13 世紀のものであるという。菩日文献が該当するこの時代は、チベット史においては吐蕃帝国崩壊 (9 世紀半ば) 後の統一的政治権力が存在しなかった時代であることから、「分裂期」(シルプーカプ *sil bu'i skabs*) といわれる時代に相当し、同時に、二度目のインド仏教のチベットへの仏教伝播があった後伝 (チタル *phyi dar*) の時期で、後にカダム派やカギユ派、サキヤ派などのチベット独自の宗派が成立した時代でもあったことから、仏教史的観点からは「転換期」ともいえる重要な時代である。これまで、この時代に関する同時代文献は非常に少なく、この時代の様相は後世に書かれた仏教史文献 (チュンジュン *chos 'byung*) や伝記文献 (ナムタル *rnam thar*) からのみ知り得るところであった。今回新しく利用可能となった菩日文献はまさしく分裂期或いは後伝の同時代文献であり、文献群の内容からこれまで知り得なかった同時代のチベット仏教の内容の一端が明らかになることが期待される。

本稿では、主に西蔵大学蔵文古籍研究所所長カワ・シェーラプサンボ (Ska ba Shes rab bzang po) 教授による『菩日文献』のチベット語の序文 (pp.21-38) に基づいて、同文献群の概要について報告すると共にその資料的価値と今後の研究の展望について述べることにする。⁽³⁾

2. 菩日文献

2-1. 文献群の内容

『菩日文献』に収録される写本は以下の表の通りで、西蔵大学蔵文古籍研究所により以下のようにテキスト同定されている。⁽⁴⁾

第一卷

T.P.001 『十万頌般若經』

T.P.002 『十万頌般若經』

T.P.003 『十万頌般若經』

T.P.004 『一万頌般若經』

T.P.005 『一万頌般若經』

T.P.006 『一万頌般若經』

T.P.007 『大宝積經』

T.P.008 『二万五千頌般若經』

T.P.009 『二万五千頌般若經』

T.P.010 『二万五千頌般若經』

T.P.011 『二万五千頌般若經』

T.P.012 『二万五千頌般若經』

T.P.013 『二万五千頌般若經』

T.P.014 『二万五千頌般若經』

第二卷

T.P.015 『二万五千頌般若經』

T.P.016 『八千頌般若經』

T.P.017 未比定 (斷片)

T.P.018 未比定 (斷片)

T.P.019 『十万頌般若經』

T.P.021 『二万五千頌般若經』

T.P.023 『二万五千頌般若經』

T.P.034 未比定 (斷片)

T.P.035 未比定 (斷片)

T.P.037 『大宝積經』

T.P.040 『十万頌般若經』

T.P.041	『二万五千頌般若経』
T.P.046	『二万五千頌般若経』
T.P.047	未比定 (断片)
T.P.048	未比定 (断片)
T.P.059	『二万五千頌般若経』
T.P.061	未比定 (断片)
T.P.064	『十万頌般若経』
T.P.069	チベット語文字表 (ka dpe)
T.P.070	未比定
T.P.071	請願 (bzod gsol)
T.P.072	甘露供養 (bdod rtsi mchod pa)
T.P.073	迷乱を退ける明真言 (cho 'phrul bzlog pa'i rigs sngags)
T.P.074	金剛極黒炎タントラ (rdo rje dme rtsegs 'bar ba nag po'i rgyud)
T.P.075	未比定
T.P.076	酬补儀軌 (bskang gsol)
T.P.077	共三族成就法 (rigs gsum spyi sgrub)
T.P.078	真言集 (sngags btus)
T.P.079	未比定
T.P.080-1	ラトナタロ王の章 (rgyal po rad na ta lo'i le'u) ⁽⁵⁾
T.P.080-2	病気治癒の真言 (nad grol ba'i sngags)
T.P.081	祈雨法 ('chu 'khyags dbab pa'i thabs)
T.P.081-2	五行 (lo khams)
T.P.081-3	法輪 ('khor lo)
T.P.082	毒の先端を払って砕く [儀軌] (nag po gdug pa'i dbal zlog cing thal bar rlog pa zhe bya ba)
T.P.083	シチェ派の儀軌 (zhi byed kyi cho ga'i skor)
T.P.084-1	水供養 (skyes bu'i chu gtor btang ba)

T.P.084-2	隠された宝庫 (gab pa'i gter)
T.P.084-3	隠された宝庫：金剛喜菩薩酬補儀軌 (gab pa'i gter/ rdo rje legs pa'i bskang gsol)
T.P.085-1	黒魔術を専らとする儀軌 (ngan sngags bdag po'i cho ga)
T.P.085-2	法輪 ('khor lo)
T.P.085-3	ユンドウンポンの教えを広める祈願文 (g.yung drung bon gyi bstan pa rgyas pa'i smon byang)
T.P.086	金剛手に属する青い魔術 (phyag na rdo rje khye'u chung sngon po'i ngan sngags)
T.P.087	インドの魔術 (rgya gar gyi ngan sngags)
T.P.088	未比定
T.P.089	停止（麻痺）の魔術 (chings kyi ngan sngags)
T.P.090	雹を退ける法 (ser ba rdo zlog byed pa'i thabs)
T.P.091	供養 (gsol mchod)
T.P.092-1	供養：ガルータの真言 (gsol mchod/ bya khyung gi sngags)
T.P.092-2	法輪
T.P.093-1	雹の成就法 (ser ba'i sgrub thabs)
T.P.093-2	未比定
T.P.094	三親近鈴の真言 (bsnyen pa gsum dril gyi sngags)
T.P.095	未比定
T.P.096	閻魔護法 (gshin rje gshed kyi bsrung ba'i 'khor lo)
T.P.097	吉祥へールカの強力な修法 (dpal che mchog he ru ka'i drag po'i las thabs)
T.P.098	不動明王の成就法 (mi g.yo mgon po'i sgrub thabs)
T.P.099	未比定
T.P.100	『臨涅槃智大乘経』 ('phags pa 'da' ka ye shes zhes bya ba theg pa chen po'i mdo)
T.P.101	護摩儀軌 (sbyin sreg gi cho ga)

T.P.102	暦算術 (rtsis dpe)
T.P.103-1	日食に関する魔術 (gza'nyi ma'i ngan sngags)
T.P.103-2	八卦 (spar kha'i rgyas gcod)
T.P.104	ダーキニー召喚法 (mkha'gro spyen 'dren)
T.P.105	精霊召喚法 (rgyal po spyen 'dren)
T.P.106	マンダラ線描法 (dkyil 'khor gyi thig rtsa)
T.P.107	不動明王の防護 [輪] (mi g.yo ba'i srung ba)
T.P.108	帰依の教誨 (skyaabs 'gro bslab gdams)
T.P.109	阿闍梨・ユダニンボ ⁽⁶⁾ による仏法を広めるための隠された口訣 (slob dpon g.yu sgra snying po nas bstan pa bsring ba'i ched du sbas ba'i man ngag)
T.P.110	マンダラ [儀軌] (maṇḍala)
T.P.111	餓鬼供養の儀軌 (yi dwags la gtor ma sbyin pa'i cho ga)
T.P.112	黒空母の成就法 (lha mo nag mo'i sgrub thabs)
T.P.113-1	九重天母供養頌 (srid pa rgu'i bdag chen mo'i gsol ngag)
T.P.113-2	トルマの残りを迎える陀羅尼 (gtor ma'i lhaq ma la spyen drangs pa'i sngags)
T.P.114	阿闍梨・チャルプバの破碎の呪文 (slob dpon phyar bu ba'i mnan gtad kyi gdams pa)
T.P.115	マンダラ儀軌
T.P.116	比丘イェシエードルジェから伝わったディクン派の礼賛文 (dge slong ye shes rdo rje nas brgyud pa'i 'bri khung gi bstod smon)
T.P.117	ガルワナクポ (護法神) の瞑想法 ('gar ba nag po'i sgom thabs)
T.P.118	ラーフラを降ろす方法 (ki kang 'bebs tshul)
T.P.119	黒ヤプユムの秘密法 (nag po yab yum gyi gsang sgrub)
T.P.120-1	雷と雹を降らせる口訣 (ser ba dang thog dbab pa'i man ngag)
T.P.120-2	菩提心を広大にするティクレ (雫) (byang chub kyi sems klong yangs kyi thig le)

T.P.121	未比定
T.P.122	獸や毒を持つものを取り除く防護輪 (gcan gzan nam gdug pa can gyi tshogs grol ba'i 'khor lo)
T.P.123	口伝 (man ngag dpe'u)
T.P.124	未比定
T.P.125	未比定
T.P.126	星算術 ('byung rtsis sogs)
T.P.127	未比定
T.P.128	未比定
T.P.129	未比定
T.P.130	未比定
T.P.131	未比定
T.P.132	未比定
T.P.133-1	世間に雷と雹を降らせる口訣 ('jig rten du thog ser dbab pa'i man ngag)
T.P.133-2	鳩の誓言 ('phu ron gyi rtan tshigs)
T.P.134	未比定
T.P.135	未比定
T.P.136	大自在吉祥レルパチェンのタントラより雷と雹の章 (dbang phyug chen po sha ri ral pa can gyi rgyud las thog ser gyi le'u)
T.P.137	雷と雹を降らせる口伝 (thog dang ser ba dbab pa'i man ngag)
T.P.138	未比定
T.P.139	トルマ作法 (gtor ma'i las kyi rim pa)
T.P.140	未比定
T.P.141	未比定
T.P.142	未比定
T.P.143	未比定
T.P.144	未比定

T.P.145	未比定
T.P.146	『アビダルマ集論』 (<i>chos mngon pa kum las btus pa</i>)
T.P.147	未比定
T.P.148	未比定
T.P.150	断片

2-2. 出土地

プリ(善日)はチベットの伝統的な地理区分でいえば、下ガリ(Mnga'ris smad)のマンユル(Mang yul)と呼ばれる地域にあり⁽⁷⁾、ネパールと近い要所であることから、アティシャ(Atiśa, 982-1054)などのインドのパンディタたちがチベットへ入る際にこの地を通過した。マンユルは吐蕃帝国崩壊後、帝国最後の王タルマ(Dar ma, 803-842)のユムテン(Yum brtan, 840-874)とオェスン(Od srung, 843-905)の二人の息子のうち、オェスンの孫にあたるティタシツェクパベル(Khri bkra shis brtsegs pa dpal)の三人の息子のひとりペルデ(Dpal lde)から始まり、クンタン王国(Gung thang)と呼ばれた⁽⁹⁾。プリの地はこのクンタン王国と共に栄え、王国が消滅する16世紀頃まで、チベットの歴史において西チベットの政治と文化の中心となった⁽¹⁰⁾。

クンタン王国については、ニンマ派のカトク・リクジンツェワンノルブ(Ka thog Rig 'dzin tshe dbang nor bu, 1698-1755)が1749年に著した『クンタン王統史』

(*Bod rje lha btsad poi gdung rabs mnga' ris smad gung thang du ji ltar byung ba'i tshul deb ther dwangs shel 'phrul gyi me long*)に詳しく⁽¹¹⁾、『クンタン王統史』によると、プリはクンタン王国の13のゾン(rdzong, 行政区画)のひとつであった⁽¹²⁾。また13世紀、クンタン王国の王ゴンポデ(Mgon po lde, ?-1252)がモン(Mon, チベット南部)の軍隊と戦って敗れ殺された際、妃が避難して息子のツウンパデ(Btsun pa lde)を産んだところがプリであったという⁽¹³⁾。

プリにあるプリ寺は、現在は小さなお堂が残るのみであるというが、かつてはマンユルの大寺院のひとつであったよう⁽¹⁴⁾で、インドのブッダガヤを訪れ、インド人パンディタのラクシュミーカラ(Lakṣmīkara)と『詩鏡』(*snyan ngag me*

long) や『パクサムティシン』(byang chub sems dpa'i rtogs pa brjod pa dpag bsam 'khri shing) を翻訳したことで知られるサキャ派のシヨントン翻訳師(Shong ston lo tsā ba Rdo rje rgyal mtshan, b.13c.), 同じくネパールに赴いた弟子のパン翻訳師ロドゥーテンパ(Dpang lo tsā ba Blo gros brtan pa, 1276–1342), パン翻訳師の甥にあたる大翻訳師チャンチュプツェモ(Byang chub rtse mo, 1303–1380) 等が訪れたという。またポトン派のポトン・チョクレーナムギエル(Bo dong Phyogs las rnam rgyal, 1376–1451) もこの地に長く留まり法を説いた⁽¹⁵⁾という。

2-3. 年代

菩日文献の写本群は西藏大学蔵文古籍研究所によって 10 世紀から 13 世紀のものとしてされている。写本の形態や書体を見ていくと年代を推定できるような一定の特徴が見られるが、年代決定について同研究所は紙の科学的な分析調査を行い、その分析結果に基づいて 10 世紀から 13 世紀としている。

『菩日文献』(pp.26–27) によると、同研究所は写本の年代に関して英ケンブリッジ大学及び大英図書館と共同研究を行い、米アリゾナ大学の Accelerator Mass Spectrometry Lab (AMS) と中国原子能科学研究院(北京)において写本の紙の科学的な成分を分析し、その分析結果を『菩日文献』(pp.12–17) に掲載している。それによると、菩日文献の写本の紙の原料のほとんどは、毒の成分が含まれており虫食いを防ぐことで知られる草沈丁花⁽¹⁶⁾で、写本の年代の分析結果は、T.P.080 と T.P.085 は 10 世紀、T.P.066 は 11 世紀、T.P.001 と T.P.002 は 12 世紀、T.P.151 は 13 世紀であるという。したがって、これらの科学的な分析とその結果によって、菩日文献の最も古いものを 10 世紀、最も新しいものを 13 世紀としている。

3. 菩日文献の資料的価値

菩日文献は大蔵経典だけでなく多様な蔵外文献を含んでおり、先に述べたとおり、同時代文献がほとんど存在しなかった吐蕃帝国崩壊後の 9 世紀から 13 世紀頃までのいわゆる「分裂期」の同時代文献であることによって資料的価値

は高い。特にチベットにおける写本研究の観点からは、菩日文献の写本の紙、形態、書体、インクなど、写本そのものが研究対象となり、他の時代の写本との比較研究の際の貴重な資料となる。菩日文献の写本の特徴を述べれば、書体に関していえば、大蔵經典の場合はウチェン (dbu can, 楷書体) で書かれており、蔵外文献のほとんどはドゥツァ ('bru tsha) 或いはドゥチェン ('bru chen), ドゥチュン ('bru chung) といわれる草書体で書かれている⁽¹⁷⁾。紙に関しては、モンシヨ (mon shog, モンの紙) の中のドゥクシヨ ('brug shog, ブータンの紙) とロシヨ (glo shog, ムスタンの紙) と呼ばれるチベット南部のものであるという。形態に関しては、T.P.085, T.P.095, T.P.098, T.P.100 の綴じ目がある形態の写本 (mgo brtsems ma, チベット語で「はじめ(頭)を綴じてあるもの」) は同様の形態の写本の中でも初期のものに該当する⁽¹⁸⁾という。

一方、菩日文献の写本の内容に目を向けると、蔵外文献の中の成就法や曼荼羅儀軌などのさまざまな儀軌文献は、同時代や西チベットの仏教伝播の内容を明らかにするものである。『菩日文献』の序文で述べられる通り、菩日文献には仏教とボン教が合わさったこの時代特有の文献も含まれており、これらは吐蕃帝国崩壊から仏教復興(後伝)前後にチベット仏教が混乱した時期の文献で、文献上に現れる人名や用語はこの時代独特のものである⁽¹⁹⁾という。また護法神や土地神 (sa bdag) に関するものや雹を降らせる儀軌などは、他の時代や現代でも行われているもので、且つ西チベット以外の他の地域にも共通して見られるものであるので、これらの儀軌文献の比較研究が行われることも期待される。

さらに、『菩日文献』の序文でも述べられているとおり、菩日文献は、同時代の他の地域の文献との比較研究を行う上でも特に価値のある文献群であるといえ、例えば、大蔵經典については敦煌出土写本やタポ寺写本(インド・スピティ)との比較研究が行われることが期待される⁽²⁰⁾。蔵外文献については、これは『菩日文献』の序文では触れられていないが、特にカラホト出土のチベット語文献との比較研究が重要と思われる。カラホト出土文献は、西夏王国(1038-1227)の要塞であったカラホト(黒水城)から、20世紀、A.スタイン(1862-1943)やP.K.ゴズロフ(1863-1935)が発掘して持ち帰ったもので、11世紀から

15世紀の文献群と考えられる文献群である。現在大英図書館に所蔵されるスタインが持ち帰ったチベット語のカラホト出土文献は全部で285点あり、Takeuchi・Iuchi(2016)の目録が出版されて初めてその全容が明らかになった。カラホトは現在の内モンゴル自治区阿拉善盟額濟納旗にあり、昔日文献が見つかったネパールの国境付近のプリからは遠く離れているものの、両文献群はまさしく同時代の文献群であり、内容や書体、写本のサイズなどに驚くほど多くの類似点が見られる。

カラホト出土文献中の蔵外文献の写本も昔日文献と同様、書体はほとんどが草書体ドゥツァで書かれており、写本のサイズも10~15cm×5~10cmのような比較的小さなものが多い。内容に関しても類似する点が多く、例えば、T.P.096の閻魔護法は同様のものがT.K.65やT.K.101、T.K.143に見られ、T.P.101の護摩儀軌はT.K.55やT.K.68、T.P.106のマンダラ線描法はT.K.272に見られる。⁽²¹⁾カラホト出土の蔵外文献の特に成就法や儀軌関係の文献の多くは未だ同定されていないので、カラホト出土文献の研究を進めば昔日文献の比較対象となる同種類の文献がさらに見出されるはずである。

4. おわりに

以上、『昔日文献』の序文に基づいて文献群の概要について紹介してきた。昔日文献はチベット史の空白期を埋める上で非常に重要な文献群であり、昔日文献と同時代の他の文献群、例えばタボ寺写本やカラホト出土のチベット語文献との比較により、同時代のチベット地域全体或いはチベット仏教の影響を受けた地域のチベット仏教の内容を知ることができ、さらには地域毎の特徴も明らかになることが期待される。昔日文献の個別の写本に関する研究は始まったばかりである。昔日文献の個別の写本に対する研究、そして特に書体や内容など多くの点で類似点があるカラホト出土のチベット語文献との比較研究は今後の課題であり、それらについては筆者の研究対象であるので、別稿に譲ることにしたい。

略号

BDRC Buddhist Digital Resource Center

D. デルゲ版チベット大蔵経

P. 北京版チベット大蔵経

T.K. カラホト出土チベット語文献

T.P. 善日文献

参考文献

- 『カダム明灯史』 Las chen Kun dga' rgyal mtshan. *Bka' gdams kyi rnam par thar pa chos 'byung gsal ba'i sgron me*, In Dpal brtsegs bod yig dpe rmying zhib 'jug khang (ed.). *Bod kyi lo rgyus rnam thar phyogs bsgrigs*. 1–3. 西寧：青海民族出版社. 2010: 9–842.
- 『クンタン王統史』 Ka thog Rig 'dzin Tshe dbang nor bu. *Bod rje lha btsad po'i gdung rabs mnga' ris smad gung thang du ji ltar byung ba'i tshul deb ther dwangs shel 'phrul gyi me long*. In *Bod kyi lo rgyus deb ther khag lnga (gangs can rig mdzod 9)*. ラサ：西藏藏文古籍出版社. 1990: 87–150.
- 『西藏史籍五部』 *Bod kyi lo rgyus deb ther khag lnga (gangs can rig mdzod 9)*. ラサ：西藏藏文古籍出版社. 1990.
- 西藏大学藏文古籍研究所 (ed.) 『善日文献』 (2 vols.) ラサ：西藏藏文古籍出版社. 2018.
- Diemberger, H. (2003–2004). “Book Review: Karl-Heinz Everding: Das Königreich Mang yul Gung thang, 213 Königtum und Herrschaftsgewalt im Tibet des 13.- 17”. Jahrhunderts [The kingdom of Mang yul Gung thang, kingship and political power in 13th to 17th century Tibet], *European Bulletin of Himalayan Research*. 25/26, 2003/2004: 213–218.
- Everding, K.H. (2000). *Das Königreich Mang yul Gung thang, Königtum und Herrschaftsgewalt im Tibet des 13.- 17. Jahrhunderts [The kingdom of Mang yul Gung thang, kingship and political power in 13th to 17th century Tibet]*. vols. 1 and 2. Bonn: VGH Wissenschaftsverlag. *Series Monumenta Tibetica Historica*, Abteilung I, Band 6 (1, 2).
- Helman-Ważny, A. (2016). “Overview of Tibetan paper and papermaking: History, raw materials, techniques and fiber analysis”. O. Almogi (ed.). *Tibetan Manuscript and Xylograph Traditions: The Written word and Its Media within the Tibetan Culture Sphere. (Indian and Tibetan Studies 4)*. Hamburg: 171–196.
- 大谷大学図書館 (編) 『西藏大蔵経甘殊爾勘同目錄』 京都：大谷大学図書館. 1930–32.
- Takeuchi, T., Iuchi, M. (2016). *Tibetan Texts from Khara-khoto in the Stein Collection of the British Library. (Studia Tibetica no. 48. Studies in Old Tibetan texts from Central Asia v. 2)*. Tokyo: Toyo Bunko.
- 宇井伯寿他 (編) 『西藏大蔵経総目錄』 仙台：東北帝国大学法文学部, 1934.

〔付記〕本研究は JSPS 科研費 JP19K00059 の助成を受けたものです。

註

- (1) 『菩日文献』の出版に先駆けて2012年6月、西藏大学図書館(編)『西藏大学図書館蔵菩日文献』として目録が発表されている。PDFデータはBDRCのウェブサイトでダウンロードが可能である(文献番号はW1KG18437)。
- (2) 『菩日文献』にはほぼ全ての写本の写真が掲載されているが、T.P.020, T.P.022, T.P.024-033, T.P.036, T.P.038-039, T.P.042-045, T.P.049-058, T.P.060, T.P.062-063, T.P.065-068, T.P.072-080, T.P.149は掲載されていない。
- (3) 昨今、中国国内及びチベット本土において、チベット語で「ペニン(古籍)」(dpe rnying)といわれる写本文献に関する研究が盛んになっており、『菩日文献』の編纂者の西藏大学の蔵文古籍研究所、青海師範大学(西寧)の古籍研究所など、写本研究に特化する研究部門が新設されている。2017年11月には「チベット文古籍文献の整理と研究討論会」というチベット語の写本研究に関する学会が青海師範大学で初めて開催され、2018年8月には遼寧省で第2回、2019年9月には成都で第3回の学会が開催された。学会には写本研究の研究部門を併設する西藏大学、西藏図書館(ラサ)、ポタラ宮殿(ラサ)、西藏蔵文古籍出版社(ラサ)、青海師範大学、中国蔵学研究中心(北京)、民族文化宮(北京)などから写本文献の研究や出版に携わる研究者が一同に集まった。また最近は大学研究機関の他に私設の研究機関が写本文献の出版活動を活発に行っているため、同学会にはペルツェク蔵文古籍研究室(dpal brtsegs bod yig dpe rnying zhib 'jug khang, ラサ)、セルツク仏教古籍収集編纂室(ser gtsug nang bstan dpe rnying 'tshol bsdu phyogs sgrig khang, ラサ)、四川省蔵文古籍保護編纂院(si khron zhing chen bod yig dpe rnying bsdu sgrig khang, 成都)などの私設の研究機関の研究者も参加した。
- (4) 各写本のジャンルまたはタイトルは『菩日文献』において比定されているものをそのまま和訳し、目録の中で未比定のものに関してはそのまま記した。なお、特に蔵外文献の儀礼などのジャンルやタイトルの和訳に関して菊谷竜太准教授(京都大学白眉センター)に助言を頂いた。記して感謝申し上げます。
- (5) この文献は菩日文献にのみ見られる貴重なものであるという。『菩日文献』: pp.28-29.
- (6) パドマサンバヴァ(Padmasambhava, 8c.)の25人の弟子のうちのひとり。ヴァイローチャナ(Vairocana)から伝わったセムデ(心部 sems sde)の後継者。
- (7) 伝統的にガリは、プラン(Pu hrang)、マンユル、サンカル(Zangs dkar)の3つの地域に分けられ、これらを合わせてガリコルスム(Mnga' ris skor gsum)といわれる。
- (8) グゲ・プラン王国から招かれていたアティシャを中央チベットに迎えるために「チベットの師たち」(bod ston)が向かったのがマンユルである。ゴク・レクパーシェーラブ(Rngog Legs pa'i shes rab)やカワ・シャキヤワンチュク(Ska ba Shākya dbang phyug)もマンユルでアティシャに会った。『カダム明灯史』: ff.49a6-49b1, f.75a6, f.81b4。またアティシャをインドへ迎えるために派遣されたナクツォ翻訳師(Nag tsho lo tsā ba Tshul khriims rgyal ba, 1011-1064)はマンユル・クンタンの出身である。『カダム明灯史』: f.67b2.

- (9) 『クンタン王統史』：p.91.
- (10) 『菩日文献』：pp.22-23.
- (11) 『クンタン王統史』はマニュアルに移った吐蕃帝国の子孫たちのその後の王統を特に記したもので、他の仏教史には見られないこの地域についての詳細な記述があり、クンタン王国の王統だけでなく、王国とサキャ派との関係、王国と元・明・清との政治的關係についても記されている重要な文献である。『西藏史籍五部』：pp.2-3（序文）。『クンタン王統史』については、Everding（2000）が校訂テキスト及びドイツ語訳を行い詳細な研究を行なっている。Diemberger（2003-2004）も合わせて参照。
- (12) 『クンタン王統史』：p.99.
- (13) 『クンタン王統史』：pp.93-94.『菩日文献』：p.22.
- (14) 西藏大学蔵文古籍研究所の調査によると、伝承ではプリ寺の建立者はパン翻訳師で、現在はゲルク派だが建立当初はニンマ派であったという。
- (15) 『菩日文献』：pp.22-23, n.3, 4, 5, 6, 7.
- (16) 草沈丁花はチベット紙の原料として伝統的に使われる。Helman-Ważny（2016：178）参照。
- (17) 『菩日文献』：p.30.
- (18) 『菩日文献』：pp.31-32.
- (19) 『菩日文献』：p.29ではこれらの文献を「誤った教え」（チューロク，chos log）としている。文献上に現れる独特な人名とは、例えば、T.P.085-1に現れる g nang chung nyi ma grags や pu hrangs lo tsā ba がそうであるという。
- (20) 『菩日文献』：pp.23-24.
- (21) カラホト出土のチベット語文献（T.K.）の目録番号はTakeuchi・Iuchi（2016）に依る。